

課題名 東アジア地域の大学の教育学研究科における  
国際共同教育プログラムの展開と可能性  
ーアジア教育リーダーコース (Asia Education  
Leader Course) に着目してー

研究代表者名 劉 靖 (グローバル共生教育論コース)  
研究組織等 曹 蕾 (グローバル共生教育論コース)  
Robin Chen (台湾政治大学教育学院)  
Xuefeng Qiao (南京師範大学教育科学学院)  
大平 佑有子 (グローバル共生教育論コース)  
王 岩 (グローバル共生教育論コース)  
佐藤 瞬 (グローバル共生教育論コース)  
劉 丹 (グローバル共生教育論コース)

#### 研究の目的と方法

- (1) 研究目的：本研究は、東アジア地域の大学における教育学研究科の国際化の取組みに着目し、東北大学大学院教育学研究科が中心とした「アジア教育リーダーコース (Asia Education Leader Course)」(以下、AELC という) の事例研究を通して、この国際共同教育プログラムの現状と展開ならびに課題と可能性を明らかにすることを目的とする。
- (2) 研究方法：本研究の分析に用いるデータは、東北大学大学院教育学研究科における AELC 事業に関わる取組みに関する資料や報告書および関係者によるインタビューやアンケート調査結果である。具体的には、2014 年以降に AELC に関する資料や報告書を整理し、AELC における歴史や各年のプログラムや活動をまとめた。次に、AELC 参加の経験や評価について、2014 年以降の AELC 履修生を向けたアンケート調査結果を整理した。さらに、AELC2022-2023 運営委員会議の加盟大学のコーディネーターの教員たちよりの発言を対象にし、各大学における AELC の現状や展開および可能性についての調査を実施した。

#### 研究経過

- (1) 2023 年 6 月ー11 月：準備段階

2000 年以降アジアにおける高等教育の国際化と地域化に関する研究をレビューし、本研究の分析枠組みを構築した。2014 年以降に AELC に関する資料や報告書を整理し、AELC における歴史や各年のプログラムや活動をまとめた。各年のプログラムや

活動や評価結果を整理し、AELCにおける取り組みをまとめる。次に、AELC参加の経験や評価について、2014年以降のAELC履修生を向けたアンケート調査結果を整理した。

(2) 2023年12月：

AELC2022-2023 運営委員会議の加盟大学のコーディネーターの教員たちよりの発言を対象にし、各大学におけるAELCの現状や展開および可能性についての調査を実施した。

(3) 2023年12月－2024年1月：録画文字起こし・分析。

(4) 2024年2－3月：英文論文の投稿準備。

## 研究成果

AELCは、2015年終了した「アジア共同学位開発プロジェクト(AJP)」の継続事業として、韓国高麗大学、台湾政治大学、南京師範大学、台湾師範大学と連携し、東アジアにおける教育課題に対応できる国際的視野をもった指導的人材の育成を目指す国際共同教育プログラムである。本事業は、学生の専門知識(Knowledge)・アジアに対する共感的態度(Attitude)・研究スキル(Skills)・実践(Practice)を重視する講義と実習の組み合わせで構成されている。コロナ時期(2020-2022年)のオンライン学習の経験を活かし、今現在AELCではオンラインによる事前学習と現地開催による夏季・冬季の連続講義を組み合わせで実施されている。また、参加学生の学習成果を可視化するために、年間2回AELC学生フォーラムの開催になった。2014年から2024年1月まで、登録者は545名に昇って、修了生は70名になった。さらに、事前学習実施のきっかけに、加盟大学間による共同カリキュラムの構築も始まった。東北大学、台湾政治大学および南京師範大学がそれぞれの大学で「国際実践研究I」と「国際実践研究II」の科目を立ち上げて、AELC履修の単位化を進められ、加盟大学間の共同カリキュラムの構築をリードしていると思われる。

将来に向けて、アジアの多様性を推進するために、AELCに東南アジア地域の大学の加入の可能性が検討された。また、夏季・冬季連続講義における内容・実施の仕方の更新・創新の必要性も議論された。さらに、学生レベルの交流のみならず、AELCのフレートフォームに基づき、加盟大学の研究者の間の共同研究などの促進も強調された。

## 今後の課題

本研究では、文献分析、学生のフィードバック調査結果およびAELC関連会議の資料を中心に、AELCにおける歴史や各年のプログラムや活動をまとめた。各年のプログラムや活動や評価結果を整理し、AELCにおける取り組みをまとめた。今後、AELCに登

録された学生たちも調査対象としてみていく必要がある。また、参加学生と参加教員との聞き取り調査を通じて、AELCに関わる様々な取組に関する構築のプロセスや課題などをさらに明らかにしていきたい。

#### 謝辞

- (1) 調査にご協力いただいた AELC 加盟大学の関係者、本研究の研究協力者に感謝申し上げます。
- (2) 本稿は「東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センター2023年度プロジェクト研究助成」を受け実施した研究成果の一部である。研究を支援いただいた東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センターに感謝申し上げます。